

ひと まち 輝く  
キラリ ✨  
kirari

箕面市立みのお市民活動センター

(指定管理者:(特活)市民活動フォーラムみのお)

〒562-0013 箕面市坊島4-5-20

みのおキューズモールWEST1-2F

TEL. 072-720-3386 FAX. 072-720-3387

<http://www.shimink.jp/>

Vol. 5

令和元年(2019年)9月発行

トピック

助産師の強みを活かして  
ママたちのワンアップを応援!  
社会にハッピーを増やして  
自分もハッピーに

みのおママの学校  
代表 谷口陽子さん



## 助産師の強みを活かしてママたちのワンアップを応援！

今春から、みのお市民活動センターのある「みのおキューズモール」で子育て支援の取組みがスタートしています。それが、みのおキューズモールとみのおママの学校が共同で主催している「キューズ子育てつどいのひろば」。その場所にお邪魔して代表の谷口陽子さんにお話を伺いました。

### みのおママの学校を作ろうと思ったきっかけは？

助産師として、市立病院や産婦人科クリニックで20年余り仕事を続けている中で、不安を感じているママの力になりたいと思うようになりましたが、現場だけでは十分な関わりが持てないことを実感していた谷口さん。なにか違う形で育児に関わるママを応援できないかともやもやしたものを抱えていたそうです。専門性を活かして、ちょっとした悩みも解決できるような学びの機会を作れたらと一念発起し、地域での活動を始めました。

### 地域で学んだ子育てママに必要な支援の形

立上げ当初は、仲間と産前産後のママが子育てを学べる場作りを中心に活動されていましたが「地域に出てみると、学ぶ機会を作る以前に、まずはママが満たされて元気でないとならば学べないことに気がついたのです。」そこで子育ての不安や悩みを相談でき、私たち地域で

活動する助産師や他のママとのつながりが持てる「じょさんしカフェ®」というママの居場所をつくることで日々育児を頑張っている子育てママに寄り添い、必要なサポートを行ってききました。

そして、みのおキューズモールを統括する東急不動産の「ママスマイルプロジェクト」との出会いがあり、今年6月から「キューズ子育てつどいのひろば」がスタートしたのです。

### 自分たちの強みを活かした「みのおママの学校」のこれから

新たなママの居場所ができた今、より多くのママに出会い、つづやきや不安、ちょっとした悩みに寄り添うことができる場面が増えたそうです。「専門性を活かして信頼関係を築けることが力になり、コミュニティという場ができることで子育てママに出会いやつながり、元気や笑顔を提供できることは大きな喜びです。」そんな思いに共感した仲間も少しずつ増えている

そうです。

助産師のサポートメンバーの皆さんはボランティアで活動されています。プロボノという専門職を活かしたボランティアの形が注目されていますが、専門性を提供しながら現場のママたちから学ぶことも多く、仕事にもフィードバックできる場として魅力と価値を感じているのだそうです。

「メンバーそれぞれの強みを活かしながら、ママたちがより笑顔で子育てができるようにお手伝いをしたい。そのための仲間をもっと増やしたい。」と話す谷口さん。そのことばは目標に向かって着実に歩むパワーにあふれていました。



みのおママの学校

## みのおママの学校 Information

合同会社 みのおママの学校

2016年4月、「日本の子育て環境を世界のトップ10に引き上げます!」というミッションを掲げ設立。「キューズ子育てつどいのひろば」の他に、助産師がママに寄り添う「じょさんしカフェ®」、ママの笑顔があふれるマルシェ「みのマママルシェ」、助産師の学びの場「じょさんし大学」などの活動を展開。

Mail: info@minomama.com

URL: http://minomama.com/

# 社会にハッピーを増やして 自分もハッピーに

アラブ首長国連邦のアブダビ在住歴9年間、元外資系企業のマーケティング、元FM局プロデューサー、壮絶な事故からの生還と、様々な経歴をお持ちの田中宏美さん。皆から“タマさん”の愛称で親しまれ、現在はディスコ運動の会、ツナガリーナなど、その他にも様々なお顔で地域を奔走しておられます。そんな田中さんにこれまでの経緯や想いをお聞きしました。(聞き手:スタッフ M)

募金活動中のツナガリーナの皆さん  
(左から2人目がタマさん)



## タマさんの原点

私の原点のひとつは9年前、仕事の関係で住んでいたアブダビで、鉄扉の下敷きになり、生死の境をさまよう大きな事故。後遺症で顔面神経が麻痺し、笑顔をつくることができなくなった私は、その分周りの人を笑顔にしたいと思うようになりました。人がハッピーになるのを見て自分もハッピーになる。究極の自己利益誘導です。

## 震災支援から始まったツナガリーナ

8年前の東日本大震災の時も、私はまだアブダビにいました。海外にいながらできることはないかと居ても立ってもいられず、現地の企業やレストランを巻き込んで募金を日本に送りました。その後箕面に帰ってきて、フォーラムみのお主催の震災復興支援イベント「3.11を忘れない」に募金活動で出展するために、箕面在住の外国人友だちと一緒に立ち上げたのがツナガリーナです。ツナガリーナは、募金活動だけでなく、メンバーどうして情報交換や相互サポート、なんでもいろいろ分かち合うコミュニティです。

## ディスコは究極のインクルーシブ!?

80歳の友達のリハビリ付き添いで梅田のディスコに行った時、ディスコの敷居の低さに気づきました。振り付けを覚えたり

人と同じ動きをする必要がない、自分の身体の状態で自分が気持ちいいと思う動きをすればいい、一緒に体を動かすことで打ち解けたお友達ができる。それから誘い合って行くようになり、車椅子に乗った人も外国人も高齢者もその輪はどんどん広がっています。

## 長く楽しく続けるためのポイント

その他にも様々な活動をしています。外国にルーツをもつ子どもへの日本語学習支援(春はランドセル提供も)、ホームレス状態の人との交流、縁組みおばさん、風船バレーボール等。共通するスタンスは、「できることを できる時に できるだけ」、でも上から目線で相手の尊厳を犯すことはしない。それが長く楽しく続くポイントです。



ディスコを楽しむ、会の仲間たち

## ツナガリーナ Information

ツナガリーナの詳細は  
フェイスブックグループへ



# promo

広報 promo 検索

記事はウェブサイトですべて掲載。

NPO広報サポーターpromo(プロモ)は、本誌発行団体の広報サポーターが地域のNPOの活動現場を取材レポートしています。  
<http://promo.minoh-npo.com/about.html>

## みんなの朝ごはん広場『芝樂市』

当対池公園前の芝樂広場で毎月第三日曜日に開かれている「みんなの朝ごはん広場『芝樂市』」に行ってきました。芝生が綺麗なテラスエリアに、パン・ごはん・お惣菜・焙煎珈琲などの屋台が並び、みなさんアットホームな感覚で朝ごはんを楽しんでいます。主に近隣の住民が来られていて、毎月楽しみにしている人も多そうです。子連れも多く、ここだけ少子化は関係ないかのようです。『芝樂市』を主催するのは「みんなの縁側『芝樂』」を運営するイーチ合同会社。らいとびあ21を運営するNPO、暮らしづくりネットワーク北芝と連携し、誰もが安心して暮らせるまちづくり、地域の人々を繋ぐ様々な取り組みを行っています。この取材の機会に『芝樂』のお店のひとつ「B-MART」にも立ち寄ってみました。“社会にいいお買い物”をコンセプトに、障害者作業所で作られたバッグ、カンボジアの銃弾で作られたアクセサリ、東日本・熊本などの被災地の物産が販売されていて、その売り上げが生産者への支援になります。



地域に根付き、人と人・人と地域をつなぎながら進化していく『芝樂』の活動に今後も注目です。

## みんなの縁側『芝樂』Information

大阪府箕面市萱野 2-11-4 (当対池公園向かい)  
お問合せ: TEL 072-720-6636(ごっとうデリ)  
TEL 072-720-6535(B-MART)  
URL <https://www.each-go-do.com/>

